

二松学舎大学附属図書館

quarterly report

季報



目次

- ❖ P2 フィールドワークと異文化交流 松浦史子
- ❖ P3 私と図書館 金子智香
- ❖ P4 学生時代の私と図書館 塩島翔
- ❖ P5 私の研究 長谷川良純
- ❖ P6 スタッフ紹介
- ❖ P7 図書ツールをもっと使ってみよう!
(オンラインデータベース・電子ジャーナルと共に)
- ❖ P8 図書館だより

No. 83

2012(平成24)年
7月

フィールドワークと異文化交流

文学部 国文学科 専任講師 松浦 史子

本年度より、国文学科の専任教員として着任することになりました。松浦史子と申します。

これまで中国語教育に携わるとともに、中国語圏の歴史・文学・思想・美術など様々な分野にわたる研究を行ってきました。一言で私の専門を紹介するのは難しいのですが、博士課程進学以降は、主に、中国最古の神話的な地理書（前漢〔紀元前2世紀～〕には既に成立していたとされる）『山海経』という古い書物に的を絞り、遙か昔の神話世界が、動乱の後漢～魏晉南北朝時代にかけて如何に受容されたのか、という問題について考えています。

『山海経』という書物は、古来、奇妙な図像を伴うことが知られています（水木しげる氏が『山海経』の愛読者であるといえば、大凡のイメージが掴めるかと思います）。日本人もよく知る「桃花源記」の著者・六朝時代の陶淵明（4世紀後半～5世紀初頭）もまた、『山海経』の図像に基づいて「読『山海経』」という有名な文学作品をつくりました。ところが、現在、我々が眼にすることができるのは明代以降の比較的新しい『山海経』の図像で、古いタイプの図像の実態についてはよく知られていません。その『山海経』の古図について手がかりとなるのが、古い神話世界を伝える漢代の画像石という石のレリーフで、私がここ十年ほど中国大陸でフィールド調査を行っている出土物です。約二千年前に作られた画像石には、当時の人々の社会・文化とともに彼らの想像した理想郷などが描かれ、そこに『山海経』の神々も混在するのですが、そのモチーフは日本の古代文化に影響を与えたものも少なくありません。私が漢魏晉南北朝時代に於ける『山海経』の神話受容について興味をもつゆえは、一つにこのような日本の古代文化との関わりにあります。このような動機から、最近はとくに中国の神話世界とも不可分の、東アジアの政治・文化的イメージシンボル「瑞祥」について考えています。

画像石のような出土物を考えるとき、それを産んだ土地に足を運ぶことは不可欠の作業となります。これまでに、画像石の主要出土地である山東・河南・四川省のほか、甘肅、河北・浙江、江蘇省などで、日中の若手研究者とともに現地文物局の協力を得つつ現地調査を行ってきました。さらにこのようなフィールド調査を通じて、その「モノ」を産んだ土

地の人々と触れあい、彼らの伝統・風習・文化を知ることは（私の場合はとくに）重要な作業となります。昨年夏に訪れた内モンゴルの国境付近での画像石調査では、茫漠たる黄土高原のなか、屈強な研究隊の先導により北方の地に残る遺跡を多く見学させていただきましたが、最も忘れ難かったのが、真つ昼間から数々の羊の肉料理とともに、アルコール度50度近くの強いお酒を間断なく勤めてくる北方の歓待文化でした。サイコロを使った賭けに負けるとお酒を飲ませる「罰杯」の風習がまだ日常生活に残っており、正直、胃腸がついて行きませんでした。しかし、行く先々で歓待を受け、今も北の地に根付く飲食文化に触れたことによって、例えば、この地から出土した漢代画像石に多く描かれる、宴席・飲食図、更にはそれとセットにされる瑞祥図への理解も深まったように思います。

東アジア文化に共通する瑞祥のイメージを追うことは、それと対となる「災異」を考える作業でもあります。奇しくも科学技術の発達した今なお、自然と政治との間で起こる天災・人災を目の当たりにする一方で、国の枠を超えた人間世界に共有されるプラスの言葉やイメージが、人々を動かし未来を動かす大きな原動力になりうることをも実感しながら、今後なすべきことを考える日々です。

ともかくも昨年の現地調査は、「福島」についてとても大きな関心を払い、また、「四川大地震の際には、日本人から多くの恩恵を被った。今度は、私たち中国人があなた方を助ける番」と熱く語ってくれた陝北の現地研究員達の厚情により、とても多くの成果を得ることができました。今年もまた北方の猛者達の紹介によって、中国からさらに北の地（ついで匈奴の地に突入!）、内モンゴルから出土した瑞祥図の調査を予定しています。



2009年11月、甘肅省敦煌郊外での調査〔松浦撮影〕
前方に見える雪山が、『山海経』に西王母の使者
「三青鳥」が住むとされる「三危山（さんきざん）」

私と図書館

国際政治経済学部 国際政治経済学科 専任講師 金子 智香

大学院時代を振り返り、毎日どのように過ごしていたかを思い出してみると、かなり多くの時間を図書館で過ごしていたことが分かる。図書館での勉強や研究は一日のスケジュールに組み込まれており、私の大学院生活は図書館と切り離して考えることができない。

私は、フロリダ州立大学大学院で英語教授法を専攻し、英語を第一言語としない子供達に、英語を第二言語としていかに効果的に教えるかを学び研究した。大学はフロリダ州北部の州都タラハシーに位置し、緑豊かで広大な敷地の中にあった。大学には、学習施設の他に、美術館、コンサートホール、ジム、フットボールスタジアムなど学生生活をサポートする様々な施設があり、図書館は8つあった。大学には様々な学部があるため、それぞれの図書館が各種専門分野に特化した書籍を扱っており、学生は目的や必要に応じて図書館を選んで利用した。図書館は電子書籍も含めて合計3百万冊の本を所蔵し、7万8千の定期刊行物と6百のデータベースにアクセス可能であった。

8つの図書館の中でも私がよく利用していた図書館は、人文科学や社会科学の書籍を扱う、大学の中でも一番規模が大きいThe Robert Manning Strozier Libraryであった。この図書館は7階建てで、学期中は日曜から金曜まで24時間開館していた。広々とした閲覧スペースの他に、コンピュータールーム、視聴覚室、個人学習室、グループ学習室などの設備が整っており、学習や研究を支援するサービスも充実していた。司書は、アメリカ図書館協会が認定した司書養成のための大学院修士課程を修了しており、利用者のニーズに合わせた支援を行っていた。専門性の高い情報を検索し入手するためのアドバイスを利用者に提供するには、それぞれの分野の専門知識が必要とされるため、各図書館にはその分野を専門とする司書が配属されていた。

大学院では、英語教授法に関する歴史、理論、方法論などを学び、最後の4か月間は公立小学校で教育実習も経験した。1回の授業は3時間で、予習と復習をしっかりと行い授業に臨むことが大切であった。1週間に1科目あたり何百ページものリーディングの宿題が出た。そのリーディングに基づいて授業でディスカッションをするため、内容をしっかりと理解し、自分の意見を形成する必要があった。また、各学期

に研究発表を数回行い、何本もレポートを書いた。短い睡眠時間の中、昼夜を問わず図書館で勉学に励んだ。図書館の窓から見た朝日も、図書館から寮への帰り道に見上げた満点の星空も、今でも鮮明に覚えている。図書館独特の書物の香りと静寂はとても心地よく、他の学生が熱心に勉強している姿は刺激となった。私は図書館の中だけでなく、図書館の外も学習スペースとして利用した。図書館の玄関を出ると、青々とした芝生が一面に広がり、大きなリスが駆け回っていた。その芝生の上に設置されたテーブルで、宿題のリーディングをよくした。勉強の合間には、健康管理と気分転換を兼ねて、ジムで水泳やウォーキングをした。個人で図書館を利用するばかりでなく、クラスメートとも一緒に利用した。クラスメートとスタディーグループを作り、授業の予習や復習をしたり、それぞれの研究の進捗状況を報告し合った。その際には、図書館のグループ学習室を利用した。クラスメートとの意見交換や議論は、時間が経つのを忘れてしまうくらい楽しく有意義なものであった。

このように、図書館は私にとってなくてはならない存在であった。私の心のアルバムには図書館での思い出のページが何枚もある。図書館は皆さんの大学生活をより充実したものにしてくれる場所である。皆さんの大学時代の思い出の1ページに図書館を加えてみてはいかがだろうか。



「図書館前にて」

学生時代の私と図書館

文学部 国文学科 非常勤講師 塩島 翔

二松學舎に入学した頃に、大学図書館によく通って、図書館に配架されている禁帯出の新聞や雑誌を読んでいたことを思い出す。大学へ進学し親許を離れての一人暮らしを始めた自分は、ニュース番組をほとんど見ることはなかったり、インターネットや新聞の定期購読を契約していなかったりした。そのため、図書館にある新聞だけが世の中の出来事を知る手段だった。また、本を借りることはほとんどなく、下級生のうちは研究書や学術書は、基礎演習などの授業での発表、レポート作成や試験勉強の時くらいしか見ることもなく、年月が過ぎていった。

三年生になり中古文学のゼミを選び、『大和物語』を通して、現代の注釈書・古注釈と有職故実などの様々な資料に触れながら、研究方法を学び、紀貫之についての卒業論文を書いた。しかし、資料を十分に活用することができず、レジュメに載せるための資料が時には不足していたり、時には資料を取捨選択できず、上手くまとめることができなかったりした。

このように学業があまり振るわなかった自分は、もう一度文学を学びなおしたいという思いから、大学院へ進学することにした。大学院では物語・和歌・日本漢文と平安文学に関する作品の研究方法を学びながら、研究対象を藤原敦忠に変えて、修士論文を書くことにした。

ちょうどその頃、当時図書館長であった山崎正伸先生から大学図書館で院生アルバイトを募集していることを教えて頂き、本学の図書館で働くことになった。貸出受付やレファレンスなどのカウンター業務や館内整備、図書・CDにラベル等を貼ったり、蔵書印などを押ししたりする装備という作業等を担当させていただいた。

図書館で働く機会を得て良かったことは、最新の出版情報を知ることができたことだ。例えば、研究書、辞書、紀要の他に、学術雑誌の最新号も手に取ることができ、研究に役立てることができた。また本学の図書館は、学術関係の図書・雑誌だけでなく、『AERA』『散歩の達人』『ダヴィンチ』などの一般雑誌も配架されている。勉強のために図書館を利用している時やアルバイトの勤務時間前や休憩時間を利用して、一般の雑誌を読んで過ごした。

また、職員の方から研究に対して叱咤激励されることも

あった。ある職員の方から『日本歴史』という学術雑誌の雑誌論文目録に、私の初めて書いた論文の名前が載っていることを教えていただいたこともあった。また勉強や進路についての悩みなどの相談にのっていただいたこともあった。

大学院生としての生活が終わり、国文学共同研究室助手着任と同時に図書館アルバイトを退職した。そして、助手から非常勤講師へと時の経過とともに自分の立場が変わっていた。生活のスタイルの変化が私と図書館との関わり方も変えてしまった。

現在は、研究資料が必要な時だけ行くようになり、大学図書館へ足を向けることは少なくなってしまった。しかし、公立図書館や書店に寄った際には、時間の許す限り、新刊を中心にどのような本が所蔵されたり、発売されたりしたかを確認するようにして、できる限り本に触れる機会を作れるようにしている。

情報化時代ゆえ、インターネットを重宝してしまいがちである。インターネットは自分が気になったキーワードを検索することで、必要な情報を手に入れることができる。それに対し本は、図書館や書店などを見回しただけで、自分が求めている以上の情報や探し出せなかった情報などに会える。

大学図書館は堅苦しい学術書だけがあるというイメージがあるかもしれない。しかし、一般の雑誌、漫画、映画などのDVDも置いてある。学校に居るひと時を図書館で過ごすみては、どうだろうか。そこには思いがけない発見があるかもしれない。



私の研究

本学非常勤助手 長谷川良純

昨年度のことになりますが、中国殷代における甲骨文についての研究論文を、本学の『人文論叢』（第88輯）及び『二松』（第26集）にて発表しました。そこでこの度は、私の研究について少しお話させていただこうと思います。

甲骨文は、卜辞とも呼ばれますが、主に殷王朝において儀礼として行われた占トについての記録です。占トの内容については、作物の豊作を祈るものや、災厄の有無について、軍事行為に関する事柄等々、多岐にわたります。そして、殷王朝において、そのような占トの儀礼に携わった官を貞人といいます。貞人については、殷代各王の時代に複数存在しており、複数の貞人同士で集团的な纏まり、すなわち貞人集団を構成していたことが、今日確認されています。さらに、この貞人集団は、殷王朝の存在した小屯の地の村北で一系統、村南で一系統と、二種類の系統に分かれて存在していたことが確認されており、今日、貞人集団の両系説として認識されています。

今日まで、甲骨学の分野は、さまざまな側面から研究が進められてきました。歴史的・文化的な側面からの研究もあれば、言語学的な側面からの研究もあります。それぞれの側面からの研究で、素晴らしい成果があがってはいるものの、未だに多くの謎が残されています。昨年度発表の拙稿では、同一内容の甲骨文、特に殷代の祭祀について記されたものを対象として、主に語法的な側面から考察を試みました。例えば、甲骨文において、穀物の稔りを祈求する場合には、「○○という神に対して穀物の稔りを祈求するために、○○を犠牲として用い○○という儀式をする」というような文として表現されますが、実際の甲骨文の文例に当たってみると、同じ意味を表す文字でも字形の異なるものがあったり、部分的に省略された文型が用いられたりすることが観察できます。拙稿では同一内容の甲骨文について、主に語法的な側面から論じましたが、その際、先行研究として、これまでの歴史的・文化的な側面からの成果を踏まえ、貞人集団別に語法的な差異を考察しました。その結果、同一内容の占トを記した甲骨文において、村北系の貞人集団と村南系の貞人集団との間に語法的な差異があることが

具体的にわかり、さらに、村北系の貞人集団と村南系の貞人集団との関係性についても一定の新知見を得ることができました。

今後の展望としては、このような研究を着実に続けていくことで、殷代における祭祀の状況を、少しずつでも、さらに明らかにしていくことができればと考えています。

最後になりましたが、本学附属図書館の蔵書について、ここで触れておきたいと思います。本学附属図書館の蔵書数は非常に充実しておりますが、特に古文字学関係の基礎的な資料の豊富さは、この分野を研究する者として、常々非常にありがたく、また心強く感じております。それらのうち、甲骨学分野の研究をする上で重要なものを少しご紹介します。

・郭沫若・胡厚宣：『甲骨文合集（第1-13冊）』、中華書局、1979-1982年（091-K-1～13、B1大型本コーナー）

今日の甲骨学分野の研究において欠かすことのできない大規模な拓本集であり、最も基本的な資料といえます。甲骨文の拓本集は、もちろん他にもたくさんありますが、甲骨文に関する論文を読む際には、論文に引用された用例と拓本とを逐一照らし合わせながら読むことが重要です。

・陳夢家：『殷墟卜辞綜述』、科学出版社、1956年（091-K-77、B2電動書架）

50年以上前に出版されたもので、現在大幅に見直さなければならぬ部分があることは否めませんが、甲骨文についての総合的な論述として、この分野においては今なお非常に重要な位置を占める著作です。



スタッフ紹介

～新しい顔、馴染みの顔の図書館スタッフから、皆様へひと言!～

九段

磯崎みつよ

バックヤードにすることが多いですが、皆さんと良い出会いができるよう励んでいます。座右の銘は「良く学び、良く遊べ」です。

立山友見

図書館のさすらい人。いつもどこかを彷徨っています。書架の間で見かけたら声をかけてみてください。

阿部晋一郎

ほぼ夜の番人をしています。ぼんやりしていることが多いので、声をかけて起こして下さい。

水野恵

主に午前中、カウンターを担当しています。この時間は空いているので、ぜひ利用して下さいね☆

原田奈緒子

文献複写を担当しています。わからないことがあったら気軽に聞いて下さい。

城戸彰子

困った時はお気軽に。世間話もお待ちしています。

木原ななか

オススメの本は「東京奇譚集」、DVDは「ローマの休日」です。図書館でお待ちしています。

紺色のエプロンをつけたこちらのスタッフが皆様のお手伝いをします。わからないことがありましたら、声をかけてください。

柏

坂井正恵

九段の学生さんには、なかなかお会いできませんが、柏図書館も是非利用してください。柏の本を九段に取り寄せることもできます。

當舎順子

陽光が降り注ぐ素晴らしい環境の図書館です。閲覧スペースもたっぷり。紀要も柏図書館で保管しています。ご来館お待ちしております。

清水明美

都会に疲れを感じたら、柏図書館で学習してみるのもお勧めですよ。ご利用お待ちしております。

吉田俊子

緑豊かな図書館です! 柏図書館でも、沢山の作家が、本を通して、皆さんとの出会いをお待ちしています。

木村真奈美

九段図書館のスタッフ同様、私たち柏図書館スタッフも皆さんのお手伝いをいたします。是非利用してください。

平尾江里子

みなさんが素敵な本との出会いができますように、お手伝いさせて頂いています。ぜひ、利用して下さいね。

図書ツールをもっと使ってみよう! (オンラインデータベース・電子ジャーナルと共に)

検索の手引き(政治・経済・法律編)

〈政治・経済〉

政治・行政問題の本全情報2002-2008(日外アソシエーツ株式会社編集) 日外アソシエーツ **310.31-S-02.08**

歴代内閣首相事典(鳥海靖編) 吉川弘文館 2009 **312.1-R**

議会用語事典(参議院総務委員会調査室編集) 学陽書房 2009 **314.1-G**

新・国会事典:用語による国会法解説 第2版(浅野一郎・河野久編著) 有斐閣 2008 **314.13-S-A**

国際人権百科事典(ロバート・L・マデックス著, 打桶啓史ほか監訳) 明石書店 2007 **316.1-K**

世界のマイノリティ事典(マイノリティ・ライツ・グループ編) 明石書店 1996 **316.8-S**

行政カタカナ用語辞典(中郵章著者代表) イマジン出版 2008 **317.033-G**

国際政治経済辞典 改訂版(川田侃・大島英樹編) 東京書籍 2003 **319.033-K**

国際関係用語辞典(岩内亮一・藪野祐三編集代表) 学文社 2003 **319.033-K**

対日関係を知る事典 新版(平野健一郎・牧田東一監修) 平凡社 2007 **319.1-T**

近代日中関係史年表:1799-1949(近代日中関係史年表編集委員会編) 岩波書店 2006 **319.1022-K**

経済用語辞典 第4版(小峰隆夫編) 東洋経済新報社 2007 **330.33-K**

日本経済統計集 1989-2007(日外アソシエーツ株式会社編集) 日外アソシエーツ 2009 **330.59-N-4**

岩波現代経済学事典(伊藤光晴編) 岩波書店 2004 **331.033-I**

計量経済学ハンドブック(蓑谷千凰彦ほか編) 朝倉書店 2007 **331.19-K**

日本経済史事典:トピックス1945-2008(日外アソシエーツ株式会社編集) 日外アソシエーツ 2008 **332.107-N-A**

国際協力用語集 第3版(後藤一美監修) 国際開発ジャーナル社 2004 **333.8-K**

多文化共生キーワード事典(多文化共生キーワード事典編集委員会編) 明石書店 2004 **334.4-T**

日本の創業者:近現代起業家人名事典(日外アソシエーツ株式会社編集) 日外アソシエーツ 2010 **335.13-N**

人事労務管理用語辞典(中條毅責任編集) ミネルヴァ書房 2007 **336.4-J**

会計学辞典 第6版(神戸大学会計学研究室編) 同文館出版 2007 **336.9-K**

〈法律〉

ベイシック法学用語辞典(國井和郎・三井誠編集代表) 有斐閣 2001 **320.33-B**

法律用語がわかる辞典 第5版(尾崎哲夫) 自由国民社 2009 **320.33-H**

法律学小辞典 第4版補訂版(金子宏ほか編集代表) 有斐閣 2008 **320.33-H-A**

図解による法律用語辞典 補訂3版 自由国民社 2009 **320.33-Z**

スウェーデン法律用語辞典(萩原金美編著) 中央大学出版部 2007 **322.93-S**

BASIC英米法辞典(田中英夫編集代表) 東京大学出版会 1993 **322.933-B**

憲法文献大事典:1945(昭和20)年~2002(平成14)年(文献情報研究会編著) 日本図書センター 2004 **323.14-K**

現代民法用語辞典(池田真朗編著) 税務経理協会 2008 **324.033-G**

民法小辞典 3訂版(玉田弘毅編) 住宅新報社 2009 **324.033-M**

死刑百科事典(マーク・グロスマン著) 明石書店 2003 **326.41-S**

国際法辞典(筒井若水編集代表) 有斐閣 1998 **329.033-K**

☆図書の請求番号はゴシックで示しました。

図書館だより

図書館カレンダー

九段図書館

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8:40~21:50
9:00~16:50
閉館

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8:40~21:50
9:00~16:50
9:00~19:00
閉館

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

8:40~21:50
9:00~16:50
9:00~19:00
閉館

10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8:40~21:50
9:00~16:50
閉館

柏図書館

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9:15~18:00
9:15~16:00
閉館

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9:15~18:00
9:15~16:00
閉館

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

9:15~18:00
9:15~16:00
閉館

10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9:15~18:00
9:15~16:00
閉館

※9/22(土)、10/8(月)は授業開講のため閉館。 ※10/10(水)は、創立記念日のため閉館。

図書館開館時間の変更のお知らせ

2012年4月より、授業期間の平日の開館時間が下記のように変更になりました。

《九段図書館》9:00~21:50→**8:40~21:50**

《柏図書館》9:15~18:55→**9:15~18:00**

レイトデーのお知らせ

8月17、24、31日および9月7日の金曜日は、今年から休業期間のレイトデーとなっており、閉館時間が**19:00**となります。皆様のご利用をお待ちしております。

編集後記

表紙の写真は本学九段校舎の入り口のもので、二本の松を象徴とする二松学舎は、今年135周年を迎えます。

その年に、「季報」の編集業務が突然天から降ってきてオロオロとしましたが、皆様のご協力のもと、どうにか発行にこぎつけ安堵しています。
(編集子)

二松学舎大学附属図書館

季報
第83号

発行日 平成24(2012)年7月1日

発行 二松学舎大学附属図書館

九段図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

電話:03-3263-6364

柏図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590

電話:04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ

電話:03-5614-2515